令和３年度　学校評価報告書

加賀市立片山津中学校

校長　山下　悟

令和３年度　学校評価	
評価の項目	①教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	各教科担当が宿題の点検を丁寧に行い、１時間程度かかる学年にあった学習課題を継続して用意する。家庭学習の習慣化を目指し、各種たより、懇談会などの場を通して、家庭における過ごし方（時間の使い方）を含め、保護者の協力を求める。
担当	教務主任・各教科代表
現状及び取組状況	学習意欲が身についている生徒と身についていない生徒の二極化傾向にある。全体でも家庭学習の時間が少ない。
評価の観点	（成果指標） 家庭での学習が習慣化した生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	生(22)「家庭での学習時間が１時間以上の生徒」が平均で、 A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	学習・生活アンケート（生徒(22)）の平均がＤの場合は、課題の内容を再検討する。
集計結果（%） （中間）	68.6%（C）
分析 （成果と課題）	家庭学習を３時間以上する生徒と３０分未満である生徒が同数程度おり、家庭学習時間は生徒によって差が大きい。学習時間が短い生徒の課題提出状況を確認する必要がある。
今後の改善策	課題の提出状況をもとに、毎日学習することの大切さを生徒とともに話し合う機会をもつ。頑張っている生徒に声かけをし、頑張りを認める。
集計結果（%） （最終）	62.0%（C）
中間結果との差（%）	−6.6%
分析 （成果と課題）	どの学年も１学期に比べ家庭学習時間が減少した。特に２年生では１時間以上学習している生徒の割合が５０%以下である。３年生においても例年と比べ学習時間が少ない生徒の割合が大きい。
次年度への改善策	今行っている家庭学習の在り方を見直す必要がある。各教科と連携し、覚える課題だけでなく、生徒が考えたくなる課題、調べたくなる課題などを工夫していく。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	①教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	生徒の実態を把握し、学び合いに加え、振り返り活動を大切にした学習形態に変える等の工夫をして、各教科の目標や指導の重点を確認し、それに向けて努力する。また、授業のﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ化および授業規律の徹底と定着を継続する。
担当	研究主任・教務主任
現状及び取組状況	生徒の実態に応じた指導法を工夫し、片中ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞを徹底してきているが、振り返り学習を意識して取り組む必要がある。
評価の観点	（成果指標）授業が分かりやすく、学習意欲が向上した。
実現状況の達成度判断基準	保(8)「お子さんは授業が分かりやすいと言っている」の平均が、 A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	学校評価アンケート（保護者⑧）の平均がＤの場合は、指導法を再検討する。（生徒(17)の項目も参考にする）
集計結果（%） （中間）	全学年平均　73.8%（B）
分析 （成果と課題）	落ち着いた環境で授業に集中できるため、授業がわかると感じている生徒が増えたのではないかと考えられる。課題は、1年生 64.7、2年生 75.0、3年生 81.7 と学年によって差があることが挙げられる。
今後の改善策	授業規律の徹底と定着を継続し、学習環境をしっかりと整える。また、生徒の振り返りを大切にし、生徒の学習がどのくらい定着しているかを意識しながら授業改善につなげていく。
集計結果（%） （最終）	全学年平均　69.3%（C）
中間結果との差（%）	－5%
分析 （成果と課題）	学年によって授業規律に差が生まれているためか、１年生 63.3、2年生 69.8、3年生 73.2 と最大 10%の差が生じていることが課題である。
次年度への改善策	授業規律の徹底と定着のため、３学年を通じて「授業の３か条」を大切にするよう意識付けを行う。学習環境を整え、生徒の学習の定着を見取り、生徒の実態に応じた授業の工夫を行う。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	②生徒指導　※いじめの未然防止
今年度の重点目標	情報の共有から行動実践へとつながる生徒指導体制を確立する。
具体的取組	「生徒指導委員会・各学年会」や「いじめ問題対策ﾁｰﾑ」から情報を共有し、行動実践をｽﾑｰｽﾞに行うための報・連・相を確立する。また指導体制を確立するために事例検討会(いじめ対応ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ)や校内研修等を行い、日々の体制の確認をする。
担当	生徒指導主事（生徒指導委員会）
現状及び取組状況	情報の共有から行動実践へとｽﾑｰｽﾞにつながることができるようになってきている。
評価の観点	（成果指標）情報の共有がなされていたか。 情報の共有から行動実践につながったか。
実現状況の達成度判断基準	教(21)「問題行動時の組織的対応の体制が整っている」の AB の割合の平均が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満
判定基準（備考）	教職員アンケート（教師(21)）の平均が 70%未満の場合は、方法・内容を再検討する。
集計結果（%） （中間）	９４％（A）
分析 （成果と課題）	少しバラバラな感じや統一感のない場面もあった。生徒の思いを知り、先生方との思いをすり合わせ、きちんと丁寧な情報共有・行動を重ねていきたい。
今後の改善策	生徒指導対応、問題行動の指導（Ⅱ）・（Ⅲ）にあたるものは管理職・学年主任・担任（学年の先生方）・生徒指導で集まり、情報共有・対応の確認を行い、生徒指導にあたる。
集計結果（%） （最終）	１００％（A）
中間結果との差（%）	＋６％
分析 （成果と課題）	全体の%は上がっているが、回答の A と B の割合でみると A→B の割合が増えている現状がある。組織的な対応については、やはり問題の共有、対応についての方策や対策会議を迅速にできた場合と、できなかった場合があった。
次年度への改善策	組織として対応することを年度当初に確認し、問題を学年や全体で共有し、家庭訪問の際は教頭に連絡する。生徒指導対応のレベルに応じて、共通認識のもと、対応を進めるよう努めていきたい。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	③キャリア教育・進路指導
今年度の重点目標	系統的な指導と、自分の将来を考えた進路選択をする能力・態度を育成する。
具体的取組	全校に向けた進路だよりを計画的に発行し，様々な情報を適切な時期に伝えていく。また、道徳、特活、総合的な学習の時間を中心に全教育活動を通してキャリア教育を行うための全体計画を作成し、３年間を見通した指導を推進していく。
担当	進路指導主事・各学年進路担当
現状及び取組状況	１年生での「地域の人からお話を聞く会」と職業調べ、２年生での職場体験活動、３年生での体験入学や進路学習会を中心に進路指導を行っている。
評価の観点	（成果指標）職場体験や体験入学を通して自分の将来について考える生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	生(3)「将来の夢や目標を持っている」の平均が、 A 85%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準（備考）	学習・生活アンケート（生徒(3)）の平均が 70%未満のとき、指導体系・方法を再検討する。
集計結果（%） （中間）	７１．５％（B）
分析 （成果と課題）	２年生の８６％が一番数値が高かった。3 年生が６５％と学年で一番数値が低かった。これから高校説明会や、三者懇談など高校選択が近づくと、数値が上がると考えられる。
今後の改善策	日頃から将来どのようなことをしたいのか、地域にどのように貢献したいのか、面談等の機会を通して話していく。 １，２年に向けた進路便りの発行。
集計結果（%） （最終）	７５．０％（B）
中間結果との差（%）	＋３．５％
分析 （成果と課題）	３年生の数字が７６％と上がっている。進路選択が近づくことと、担任が夢を語ることで、夢や目標を持つことができるようになったと考えられる。
次年度への改善策	担任が常日頃から、クラスで夢や小さな目標を語り、夢を語ることが当たり前になるような雰囲気作りを心がける。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	④保健管理
今年度の重点目標	基本的生活習慣を定着させる。特に歯や口の健康づくりや睡眠時間の改善を図る。
具体的取組	生徒保健委員会の活動で、正しい生活習慣に関する知識を広めたり、母親委員会との協力で家庭との連携を考えていく。また、学校保健委員会等で家庭・地域と情報を共有し、基本的生活習慣の定着につなげる。
担当	保健主事
現状及び取組状況	むし歯の治療率は年々高まってきているが、春の検診で再びむし歯になっている生徒が多い。また TV・ゲーム・ネットなどで睡眠時間が少なく体の不調を訴える生徒がいる。
評価の観点	（成果指標）むし歯の治療率が向上したか。
実現状況の達成度判断基準	歯科検診でむし歯があった生徒の治療率が、 A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準（備考）	むし歯治療済みカードの回収率。 治療率が 80%未満のときは、取り組み方を検討する。
集計結果（%） （中間）	７２．７％　(C)
分析 （成果と課題）	生徒の治療の意識を高めるため、生徒保健委員会作成のむし歯地図で各ｸﾗｽの治療の様子について知らせ掲示している。保護者には、歯科検診が終わってから 3 回治療のお願いの通知を出した。しかし、根強く治療につながらない家庭がある。
今後の改善策	今までの生徒保健委員会活動に加え、歯や歯肉の大切さ・治療の大切さの個別指導を行い、早期歯科受診につなげていきたい。
集計結果（%） （最終）	７６．４％ (C)
中間結果との差（%）	＋３．７％
分析 （成果と課題）	治療に繋がらない家庭は固定している傾向にあり、そのため兄弟で治療をしていないことが多い。意識を高めるために、生徒や保護者への個別指導が必要であったが、なかなかできなかったことが反省点である。
次年度への改善策	後期は行事も多く、３年生は受験にかかることから、夏休みが終わるまでに治療につなげることが治療率アップに有効である。歯科検診終了後直ちに、担任と連携し治療の意識を高める指導を考えていく。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑤安全管理
今年度の重点目標	防災時や救命救急など、緊急時の対応ができるようにする。
具体的取組	危機管理の校内研修を行い、安全管理意識の向上に努める。 養護教諭と連携し、アクションカードを用いた実践を行う。
担当	教頭・防災安全担当
現状及び取組状況	危機管理マニュアル・防災マニュアル等はあるが、個人の担当部署や緊急時の対応の仕方が周知されていない。
評価の観点	（成果指標）安全講習会や避難訓練、防災機器の研修会等を受け、災害時の行動マニュアルを理解したか。
実現状況の達成度判断基準	教(26)「職員が災害行動ﾏﾆｭｱﾙを実践できた」の ab 合計が、 A 80%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準（備考）	教職員アンケート（教師(26)）の ab の合計が 70%未満のとき、方法・内容について再検討する。
集計結果（%） （中間）	89.5%（A）
分析 （成果と課題）	1 回目の避難訓練では、職員の担当割を例年と変更させたことにより、事前の職員の同士の確認や当日の動きについていつも以上に情報共有ができた。生徒自身の避難訓練の必要性や当日の実践意識をもっと高める必要がある。
今後の改善策	次回の避難訓練では、避難訓練の時間の設定や、生徒が主体的に判断し行動できる場面を作れるように工夫して行う。危機管理に関わる校内研修を行う。
集計結果（%） （最終）	100%（A）
中間結果との差（%）	＋　10.5%
分析 （成果と課題）	2 回目の避難訓練は、6 限後の掃除中に行ったことで、生徒はいつ非常ベルが鳴るのか意識して 1 日を過ごしていた。また、3 年生の総合での防災教育、11 月の市防災訓練があったことで、防災の意識は高められた。
次年度への改善策	今年度は、地震発生時刻を授業ではない時に設定したが、次は避難場所を当日の放送で知らせることや、校内の通路を遮断したりと条件を変えて行うことも検討していきたい。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑥特別支援教育
今年度の重点目標	生徒支援委員会を週に一回程度開催し、情報交換や生徒理解に努め、個々に応じた効果的な支援について検討する。
具体的取組	校内委員会や研修会を通して、全教職員で共通理解を図る。学年会や生徒指導委員会、特別支援教育支援員、SC、専門相談員等と連携してより具体的に個々の支援の方法、内容、変容効果について検証し、実践していく。
担当	特別支援コーディネーター（生徒支援委員会）
現状及び取組状況	事例検討会や校内研修会を開催し、支援の方法を検討している。
評価の観点	（成果指標）生徒は学校が楽しいと感じているか。
実現状況の達成度判断基準	生(18)「学校に行くのは楽しいと思う」の ab の合計が、 A 90%以上の場合 B 85%以上の場合 C 80%以上の場合 D 80%未満の場合
判定基準（備考）	学習・生活アンケート（生徒(18)）の ab の合計が C・D のとき、原因を分析し、次年度の取組を検討する。
集計結果（%） （中間）	87．2%（B）
分析 （成果と課題）	3 年生は 1 年次・2 年次とも数値が低かったが、今年度は 84.7%と学年単独では 85%に届いていないものの数値が上昇してきた。2 年生は a の割合が 48.2%と低くなっている。
今後の改善策	２学期は大きな行事があるので、行事で活躍することで、2 学期末の評価が上がってくることを期待している。
集計結果（%） （最終）	85%（B）
中間結果との差（%）	-2.2%
分析 （成果と課題）	3 年生は 88.9%と良い評価となっており、体育祭やスワトン祭があったことで No.19「みんなで何かをするのは楽しい」の評価が伸びていることと関連していると思われる。2 年生が 89.3%から 82.7%へと大きく評価を下げている事が大きな課題となっているが人間関係でのトラブルが関係していると推察される。
次年度への改善策	相手の気持ちや立場を想像する力を伸ばす取り組みを次年度に向けて具体的に考える。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑦組織運営・業務改善
今年度の重点目標	全職員が学校運営参画意識を高め、分掌の平準化と多忙感・負担感の軽減に努める。働き方改革にむけ業務改善をさらに進める。
具体的取組	職員の縦と横の連携を適切に行い、職員一人一人の学校運営参画意識を向上させる。働き方改革の意識を高め、勤務時間と部活動時間の管理を適切に行い、超勤削減とワークライフバランスの実現を図る。
担当	教頭・各主任
現状及び取組状況	働き方改革を意識しながら業務を行っているが、思ったほどの超過勤務時間の削減に至っていない。
評価の観点	（成果指標）勤務時間を意識し、働き方改革が行えているか。
実現状況の達成度判断基準	職員の超過勤務時間の平均 80 時間以下の人数が A 80%以上の場合　　B 70%以上の場合 C 60%以上の場合　　D 60%未満の場合
判定基準（備考）	C・D のとき、原因を分析し、次年度の校務分掌や業務内容を検討する。
集計結果（%） （中間）	61.7%（4～7 月）（C）
分析 （成果と課題）	新年度が始まる４月は、超過勤務時間が 80 時間以下の職員は 4 月 36.8%５月 55%、6 月 75%、7 月 80%である。その月の行事等で超過勤務になる現状があり、担当の校務分掌等によって個人差がある。
今後の改善策	定期テストや体育祭・文化祭は４月当初に日程が決まっているので、先を見通して計画的に業務をこなしていく必要がある。また行事等はチームとして取り組むものであるので、事前の話し合いでは役割分担の確認を、作業等で人手があると時間短縮できるなら遠慮せず周りに伝えていく。（何をどのようにして欲しいか伝える）
集計結果（%） （最終）	74．7%（9 月～12 月）（B）
中間結果との差（%）	＋13.0　%
分析 （成果と課題）	超過勤務時間が 80 時間以下の職員は、月別に見ると 8 月 100%、9 月 90%、10 月 47.6%、11 月 76.2%、12 月 85%である。10 月は体育祭とスワトン祭が重なったため 80 時間以上の超過勤務者が 5 名いたが、全体的に 1 学期に比べ改善している。9 月の前半はコロナウイルス関係で部活動が休止になったことがありがたかった。今後は積極的に業務の平準化を進めていかなければいけない。
次年度への改善策	超過勤務になる理由が、ほぼ部活動と行事によるものが挙げられる。これについてはなかなかすぐに改善できるものではないが、行事等での作業は担当者で仕事を割り振りながら、できるだけ仕事が偏らないように全体で協力しながら行うことが必要である。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑧研修
今年度の重点目標	思考力・判断力・表現力を育て、学力の向上を目指す。
具体的取組	思考力・判断力・表現力の育成及び学力の向上を図るために、各教科・領域・学年で工夫している内容を提案授業、研究授業、互見授業から学び合い、授業改善につなげる。若プロにも授業改善を目的とした研修を積極的に行っていく。
担当	研究主任
現状及び取組状況	教科の枠を越えた授業研究、互見授業を実施している。
評価の観点	（成果指標）思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりができたか。
実現状況の達成度判断基準	生(20)「授業中自分の考えを表現している」の ab の合計が A 75%以上の場合 B 70%以上の場合 C 65%以上の場合 D 65%未満の場合
判定基準（備考）	C・D のとき、原因を分析し、次年度の研修内容を検討する。
集計結果（%） （中間）	全体　76.5%（B）
分析 （成果と課題）	各学年とも 70%を超えている。話し合い活動や全体での発表のみを表現と考えているため、振り返り活動も表現であることを意識しておらず、数値が低くなった教科もあった。
今後の改善策	表現している意識を持たせるために、ノートを個人で工夫しながら活用したり、負荷をかけて自ら解決していくような課題を意図的に設け、思考力、判断力、表現力を伸ばしていきたい。
集計結果（%） （最終）	全体　70.5%（B）
中間結果との差（%）	－6%
分析 （成果と課題）	表現する活動が増えるとともに、生徒自身が表現しているという意識を持つことができた。ただ、「表現した」ことよりも「表現できた」かどうかを重視した学年もあり、受け取り方に差が出ている。
次年度への改善策	継続して表現活動を授業に取り入れていく。また、表現しているという意識が持てるような課題設定を行う。ポイントをおさえながら、表現できたという実感が持てる活動を取り入れる。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑨保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からのお便りが確実に保護者に渡るように呼び掛けていく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	ＨＰだけでなく、メール配信で学校の状況を伝えていく。ＨＰやメール配信等の内容の充実を図っていく。
評価の観点	（成果指標）担当者を中心に、充実したHPの更新ができていたか。また、ﾒｰﾙ配信が適宜・適切に行われていたか。
実現状況の達成度判断基準	保(1)「学校だよりやHP等で学校の様子がわかる」のab合計が A 90%以上の場合　B 80%以上の場合 C 70%以上の場合　D 70%未満の場合
判定基準（備考）	保護者アンケート（保護者(1)）の合計が80%未満のとき、方法・内容について再検討する。
集計結果（%） （中間）	77.5%（C）
分析 （成果と課題）	各学年の達成度は、１年66.7%、２年81.4%、３年84.4%であり、１年生の評価がやや低い。１年生の保護者は、初めて中学生になった様子を知りたいという思いが他学年より多いと思われる。ＨＰに載せるタイミングが遅くなってしまうことがある。
今後の改善策	ＨＰへの載せかたがなかなか覚えられずにいるので、周りに聞きながら自分でチャレンジしできるようにしていく。今後授業の様子や学習内容等を、時々大まかに発信していくこともしていきたい。
集計結果（%） （最終）	81.7%（B）
中間結果との差（%）	＋　4.2%
分析 （成果と課題）	各学年の達成度は、1年70.4%、2年86.6%、3年88.2%と、どの学年も、少しずつではあるが増えている。ＨＰの閲覧数が、昨年１月より今年の１月までの１年間で、10万件を超えている。授業の様子等は配信できなかったが、校長の「片中日記」を継続的に掲載していることが功を奏していると思われる。
次年度への改善策	ＨＰへの掲載は、うまく自分でできていないので、どの職員でも気軽にできるようになれることを目指したい。また、学校内の様子など、いろいろ工夫して配信していきたい。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑨保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からのお便りが確実に保護者に渡るように呼び掛けていく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	保護者との連絡を密にして早期にかつ親身な対応を図る。また、小中連携を行い、連携を深めていく。
評価の観点	（成果指標）個人懇談や保護者懇談を適切に実施し、家庭との連携を充実したものにできたか。
実現状況の達成度判断基準	保(2)「学校は家庭への連絡を細かく行っている」の ab 合計が A 70%以上の場合　B 60%以上の場合 C 50%以上の場合　D 50%未満の場合
判定基準（備考）	保護者アンケート（保護者(2)）の合計が 60%未満のとき、方法・内容について再検討する。
集計結果（%） （中間）	92.8%（A）
分析 （成果と課題）	今年度、ほぼ全家庭にメール配信できるよう登録できたことにより、お知らせや提出物の確認がこまめにできるようになった。学年やクラスごとに分けられているので、メール配信がしやすくなった。
今後の改善策	学校全体や学年のお知らせを中心にメール配信しているが、今後はクラス単位でも必要な場面があれば活用していく。
集計結果（%） （最終）	83.9%（A）
中間結果との差（%）	―　8.9%
分析 （成果と課題）	ほぼ全家庭にメール配信ができ、2 学期になってからは特定の部活動の生徒に連絡することができ、今年度のメール配信システムにしたことで利用しやすくなった。メール配信を用いてアンケート等を実施しているが、2 学期後半より返信率が悪くなっている。
次年度への改善策	来年度も今年と同じ設定のメール配信でいいと思われる。メールを学年やクラス別、部活動別などいろいろ工夫して活用できるとよい。

令和３年度　学校評価	
評価の項目	⑩教育環境整備
今年度の重点目標	安全点検を行い、施設設備等の不備を早期発見し修理・修繕していく。
具体的取組	掲示担当者を明確にし、適切な掲示計画をもとに各学級･廊下の掲示物の充実を図る。安全点検により改善状況を適切に把握し、市とも協議した上で早急な対応を実施する。職員で修理可能なところは随時修理していく。
担当	教頭・営繕修理担当者
現状及び取組状況	定期的に安全点検を実施し、修理等が必要な個所は早急に直し、自校での修理が難しいものは市教委にお願いしている。
評価の観点	（成果指標）安全点検等を確実に行い、施設設備の状況を把握し、不備があれば自分たちで修理していく。
実現状況の達成度判断基準	教(28)「施設設備の点検・整備・修繕を行った」の ab の合計が A 90%以上の場合　B 80%以上の場合 C 70%以上の場合　D 70%未満の場合
判定基準（備考）	教職員アンケート（教師(28)）の ab の合計が 90%未満のとき、方法・内容について再検討する。
集計結果（%） （中間）	83.3%（B）
分析 （成果と課題）	校舎が古いことで雨漏りや施設の不備はいくつか把握しているが、改善にいたっていない。学期毎の安全点検で指摘された部分は、できるものから修理している。
今後の改善策	今後も大きな修理が必要なものについては、継続的に加賀市にお願いをしていく。定期点検に限らず、日頃から各場所を見て、改善策等を提案してください。不要物（廃棄物）の有無についても確認していく。
集計結果（%） （最終）	100%（A）
中間結果との差（%）	＋　16.7%
分析 （成果と課題）	1 学期より大きく改善され､施設等の点検･整備･修繕ができている割合が 100%となった。校舎の壁の亀裂やはがれが目立つところがいたるところにあり市教委にお願いしているが、改善にまで至っていない。ほとんどの修繕は校長が行っているので他の教職員も修繕できるように取り組めると良い。
次年度への改善策	建物が古く不便を感じるところがたくさんあるが、不備を早期に発見しすぐに整備することが大切である。常日頃から安全であるか、継続して確認していくことが必要であり、担当場所の蛍光灯の交換などの簡単な作業は自分たちで交換できると良い。

学校関係者評価

・生徒が意欲をもって学校に来ることが大事である。今後も安心できる学校づくりを目指してほしい。	・１日の家庭学習時間が１時間以上の生徒の割合が HP の閲覧数が低いことが残念である。塾講師の補習やかも丸塾をもっと活用できるとよい。
・HP の閲覧数がよい。HP が魅力のあるものになっている。	・虫歯の治療率が低いことも残念である。
・PC の活用が増えてきているが、人との関わりがつらい生徒も増えてきているので、そんな生徒に効果的かもしれない。	・人との関係性が変わってきている。多様な感性の生徒に配慮が必要である。
・世の中の変化に対応していくことが大切である。	・コロナ過なのでしかたないのかもしれないが、出勤時間前に仕事が日常的にあることは、改善されるべきである。